

「図解 解剖学事典」 改訂第2版

H. Feneis 著

東京大学名誉教授 福岡大学 教授	山 田 英 智	監訳
群馬大学 教授	石 川 春 律	訳
東京大学助教授	廣 澤 一 成	

日本医科大学教授

吉 川 文 雄

私の手許には大分手垢に染まった Heinz Feneis 教授著の Anatomisches Bildwörterbuch 第3版と、その邦訳書図解剖学事典が必ず存在している。Feneis 教授の原著を手に入れたのは10年近くも前のことであつた。発注するまでは“随分思いきったタイトルの著書”としての興味のみであつたが、入手して頁をめくるに従って、私はだんだん興奮してきたのであつた。当時の——いや、今日でもそうであるが——私の生活の核心は、膨大な解剖学の用語名のあれこれを、これまた膨大な解剖学成書をあれこれと頁を繰りながら“質問をかかえた学生”にどのように手際よく応答理解させるかにあつた。私の切願にも似たその思いを本書がまさに具現していたからであつた。ちなみに原著第1版の序文には本書の完成に多くの学生の協力を得たと述べられている。まさに訳者の1人である山田英智教授が、その訳者序に書いているごとく“解剖学

で使用される多数の用語を、要領よく図と対比しつつ簡単な説明を加えた本書は、学生諸君の勉学の伴侶”としてその利用価値はまことに多大である。

邦訳書の第1版は原書の第3版で、1974年である。その後原書は第5版となり、その邦訳が今回の第2版として、更に面目を新たに出版された。驚いたことに、今回の訳書の冒頭にロンドン大学名誉教授 Roger Warwick 教授の序が載せられているが、その感懐がまさに私の上記のそれと全く同様である。曰く Feneis 著「解剖学事典」は、まさに驚くべき成功を得た本であつた。私はその初版が現れたとき、これほど役に立つ本が出版されるとは誰も思いも及ばなかったという驚きを今でもありありと想い出すことができる。この本は私の机上の手の届く範囲に常に置かれ、私はしばしば参照させてもらっている。解剖学の領域では長年にわたって多くの本が出版

されてきたが、その中で少数のものだけが、その独創性と時間を越えた有用性を持つ。この本は疑いもなくその中での「選ばれた書物」である”と。

著者 Heinz Feneis 教授自身は第5版の序において“解剖学事典は簡明な情報と共に、現在通用している国際解剖用語委員会決定の解剖学用語を提供するものでなければならない”との書き出しの下に第5版は最も新しい Nomina Anatomica 4版の改変に基づくものであるが、国際用語が改訂されたという理由のほか、より大きな改版の理由が“同僚や学生諸君からの本書に寄せられた提案”からであると述べている。本書のますます足の地についた感が伝わって嬉しく思われる。

さて、実際に今回の邦訳第2版は、活字、図ともにやや大型となり、大変に見やすく、使いやすくなっている。総頁はわずか10頁ほど多いにもかかわらず、新図ないし改訂図が百数十葉に及ぶのも、並々ならぬ工夫と努力の結晶であろう。とにもかくにも難解な解剖学用語の1つ1つが、サラリとした挿図の中にピタリととらえることができるのであるから驚きである。本書が学生諸君、研修医諸君をはじめ広く臨床医家にもその座右に備えられ、活用されることをおすすめするものである。

A5変型 512頁 図199 1983年
3,200円 送料300円

医学書院 刊